

はらから

〒五二〇〇四三

大津市中央一丁目二二二

電話 〇七七一五二二七六四六

住職携帯 〇九〇七七八七七一六四七

Eメール eijunji1608@gmail.com

ホームページ



報恩講

左記の通り執り行いますので、ご参集下さいますようご案内
かたがたよろしくお願いいたします。

日時 十一月二十四日(振替休日)
午前一〇時〜午後二時三〇分

講題 「こころの時間」

講師 石原教人氏 聞光寺住職(守山市) 本願寺派布教使
その他 お斎をご用意します。出席の返事を十一月十四日(金)

必着でお願い致します。

「御供」をして頂く場合は、お寺までご連絡下さい。

報恩講は、永代経、彼岸会、孟蘭盆会などの法要とは少し性質が異なります。「講」というのは、「あつまり」の意味です。全門徒(僧侶も含む)が、私たちの宗祖である親鸞聖人の徳を讃え、教えに触れるための「あつまり(講)」なのです。つまり、報恩講は僧侶も門徒も一丸になって執り行う、一年に一回の大事な行事なのです。ですから、

みなさん、
何とかご都合をつけてご参集下さい。

永順寺忘年会のご案内

今年も開催します。場所は昨年好評だったマルシです。町家を改造した雰囲気のない和風レストランです。食事をしながら心置きなくお話ししましょう。ござってご参加下さい。

日時 12月21日(日) 5時〜7時

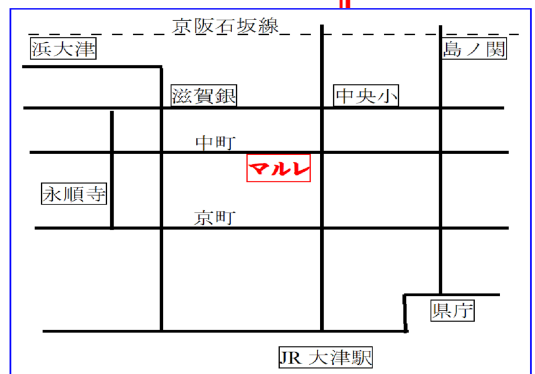
場所 マルシ 大津市中央2丁目5-18

JR大津駅北口より大通りをびわ湖側へ。徒歩約8分。

京阪石坂線島ノ関駅出口より大津駅側へ
徒歩約8分。電話 077-526-7025

会費 5,000円(当日)*飲み放題

申し込み 11月14日(金)までに同封のハガキ、電話、等をお願いします。
キャンセルは3日前までに。



関西万博が残したもの

関西万博が幕を閉じました。

皆さんは行かれましたか。私は四月と六月の二回、坊守に連れられて行きました。

映像とリアル

人からどこがいいか聞かれるのですが思い出せないのです。

「年やなあ」と坊守と嘆きつつ、原因はもう一つあると。それは、パビリオンの多くが映像展示だったからではないか。見ているときは、すごいなと思うのですが、時間がたつと忘れてしまう。つまり、印象に残りにくい。ささやかであっても、その国の人がリアルでパーフォーマンスをされたところは覚えているのです。皆さんはどうでしたか。

大屋根リンクもいけど…

さて、「関西万博が残したものの」は、人によって評価が違うでしょう。大屋根リンクが一番？私も同感ですが、



わずか半年のイベントにあれだけの森林を伐採するのは如何なものかという思いもあります。

土産に買いました

私は、キャラクターのミヤクミヤクに一票投じたいです。私が唯一自分のために買った土産がミヤクミヤクです。



土産に買ったミヤクミヤク。キャンディー入りで一番安かった。

最初に見た時、「ちよつと気持ち悪いな。なぜこれが公式キャラクターなんだろう」と思いました。ひこにゃんのほうがよっぽどかわいいと。結構同じ意見が多かったと思います。私の孫も最初は「気持ち悪い」と言っていたくらいです。



ところが、日が経つにつれて「キモカワ」と言われ出して、

人気急上昇。終盤には、ミヤクミヤクグッズが爆売れし、評判は大逆転しました。

すり込まれた「かわいいさ」

ではなぜ最初気持ち悪いと感じたのかと考えると、単に未知の姿というだけではなくて、

「異形」がその理由ではないか

と思うのです。異形というのは、人間と同じように目も手も足もありません。それが、私たちの「かわいいさ」と相容れないのです。小さい子どもでも、既成の「かわいいさ」をすり込まれて先入見になってしまっているのでしょう。



子どもはさておいても、私たちも異形さに目を奪われ、すり込まれた先入見に気づかないのでしょうか、とらわれてしまっているのでしょうか。

先入見に執着する私

これを仏教では「執着」と呼びます。まさに私がそうでした。これが見た目で人を判断する偏見や差別にもつながっているのだと思います。

話は変わりますが、若者のファッションにはついていけません。

お尻からシャツ出てるよつと言いたくなります。正直、だらしなと思うてしまいます。それが自分の先入見であり、執着だとはなかなか思えません。それを教えてくれたのがミヤクミヤクでした。だから、お土産に買って帰りました。関西万博が残してくれたもの、それはミヤクミヤクでした。

ミヤクミヤクは私にとっては仏様の化身と言えるかもしれません。



親鸞聖人の生涯 ①

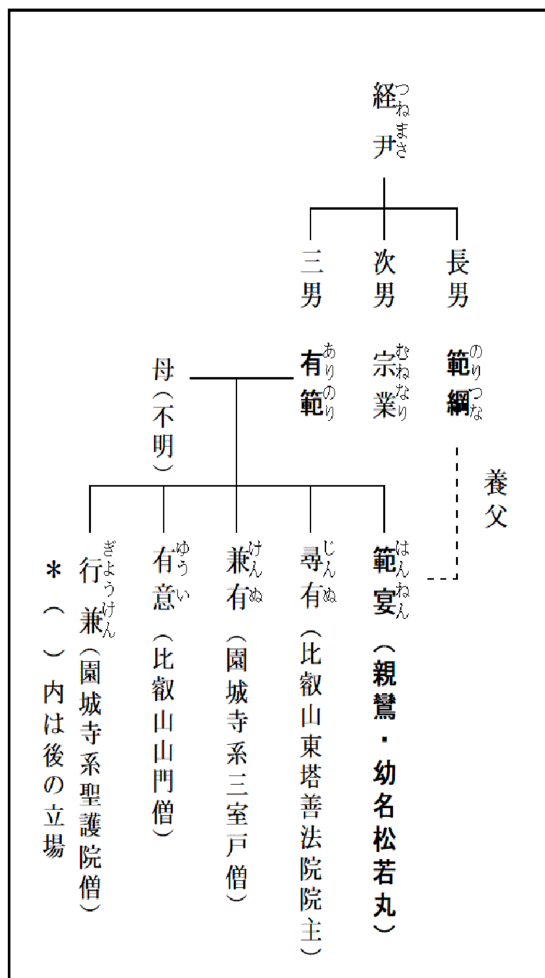
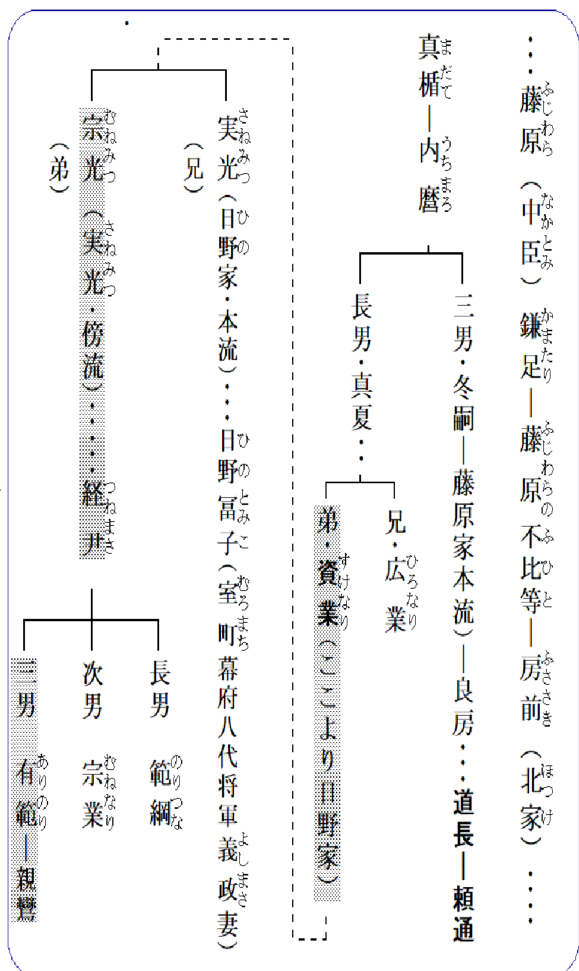
1 親鸞の誕生

1 誕生と日野家の系譜

聖人は承安三年（一一七三）、日野有範の長男として、現在の京都市伏見区の日野で生まれました。誕生日は不明です。江戸時代になってから、古い記録に「四月一日」が誕生日とあったことから、明治になって太陽暦で換算されて五月二一日を誕生日とし、「降誕会」が執り行われるようになりました。

生誕地の日野は宇治市との境にある静かな所です。平安京の都から東南方に位置しています。宇治は、当時から景勝の地であるとともに、藤原一族を始め平安貴族の墓地が多く営まれました。日野はそのすぐ北に位置し、藤原氏一族である日野家の別荘や寺院もありました。日野家の菩提寺法界寺は現存しています。

系図を見ると、聖人の生まれた「日野家」が平安貴族の代表である藤原一族であることがわかります。しかし、藤原氏



の本流（道長、頼通につながる一族）ではなく、その傍流から分かれた日野家からさらに分岐した傍流（日野宗光の子孫）でした。

とはいえ、日野家を名乗り始めた日野資業や兄の広業はとも

に*文章博士として、漢文学や中国史の専門家として教授・研究をしていました。また、資業は『後撰和歌集』（九五一年）

『後拾遺和歌集』（二〇八四年）の編纂に関わっていて、従三位

まで昇進しています。一族の出世頭といえるでしょう。以後、

日野家は室町のはじめまで、代々歌人を輩出したそうです。このことは、聖人の漢文や和讃に長けておられたことと無関係ではないと思います。

*文章博士とは、貴族の教育機関だった大学寮で、漢文学や中国の歴史を教えていた教員です。

2 親鸞の家族

父親の日野有範は宮廷に仕えていました。母親のことはわかっていません。ただ、江戸時代に作られた伝記では「吉光女」とされ、聖人が八歳の時になくなっ

たといわれています。父有範は、親鸞の伝記である

『御伝鈔』には「皇太后宮大進ごてんしやうありのり有範」とあります。天皇の退位で皇后を下がった人（皇太后）の日常の事務を担当する役所の（宮）に勤める、ナンバー3のポスト（大進）です。これは、高い官職ではありません。その上、何か事情があつて若くして宮廷を引退し三室戸に隠棲したようです。

有範のりつなの兄範綱わかさのかみは若狭守となり
從三位じゅさんみになっていますから、傍
流の日野家では出世した方です。

聖人は五人兄弟の長男として
承安三年（一一七三）に生まれ
ました。次男が尋^{じん}ぬ、三男兼有^{けんぬ}、
四男有^う意^い、五男が行兼^{ぎょうけん}です。後
に、五人全員が出家しています
から、貴族とはいえ、それほど、
安定した生活は望めなかったの
でしょう。

そういう事情もあつて、聖人は幼い頃に、伯父範綱の養子となつています。経済上の理由とともに、将来のことも考えてのことだったのでしょう。

3 比叡山の親鸞

(1) 出家得度

聖人は、数え年九歳の時、伯父であり養父であつた日野範綱のりつなに付き添われ、青蓮院しょうれんいんの慈円じえんの元で出家されたと言われている。一行の到着が夜であつたため、得度式とくどしきを明朝に行おうと話し合われたとき、

聖人が次のような歌で応じたと
います。

明日ありと 思う心のあだ桜
夜半に嵐の吹かぬものかわ

こうして得度式はその夜に行われしました。出家した聖人は、養父「のりつな範綱」の「はんねん範」の一字をもらつて「はんねん範宴」と名のられ、やがて比叡山に登り以後二十年間にわたる天台宗の学僧としての道を歩み始められました。

これが聖人の出家にまつわる伝承ですが、何点か歴史的に見直されています。

まず、慈円ですが、一一五五年生まれで聖人より十八歳年長



慈円から得度を受ける親鸞。三人の僧に囲まれて居るのが親鸞。紙燭（紙蠟燭）が焚かれていることから夜であることがわかります。『親鸞聖人伝絵』

です。この人の父親は摂政関白も務めた忠通ただみちで、藤原頼通よりみちの孫になります。慈円の兄には近衛家ともを起こした藤原基実かねざね、九条家きゅうじょうを起こした兼実かねざねがいます。兩名とも摂政関白を務めています。

慈円は、そういう名門貴族の出で十三歳で出家後、出世階段を一気に上り詰めていきます。三十七歳で天台座主になり、その後三回座主となります。和歌

にも優れ、『愚管抄』という歴
史書も残しています。

ところで、聖人が九歳の時慈
円は二七歳です。その時慈円自
身がまだ受戒していません。受
戒していない者が、他者の戒師
になることはありません。これ
が見直しの一点目です。

次に得度された青蓮院ですが、最初は三条白川、次に祇園東の吉水と移り、慈円が没した後、現在の栗田口に移りました。従つて、現在ある青蓮院で聖人が得度を受けられたのではないようです。

では一体誰の下で、どこで得度されたのでしょうか。おそらく、聖人が出家された時の青蓮院の住持、慈円の師である覚快かくかいから、三条白川にあった青蓮院で受けられたと考えられます。

その直後に覚快はなくなり、慈円が青蓮院の住持を継いでいます。ですので、親鸞が適當年齢になった時、慈円の下で受戒されたと考えるのが自然のようです。岡村喜史「日本史の中の親鸞」